荒神谷遺跡出土銅剣の配列と個体番号について

澤田正明・足立克己

- 1. はじめに
- 2. 経 緯
- 3. 検証作業

- 4. 検証結果
- 5. 考察に与える影響と修正事項
- 6. おわりに

1. はじめに

荒神谷遺跡出土青銅器は、1986~1994年にかけて 保存修理され島根県埋蔵文化財調査センター、島根 県立博物館での保管を経て、現在は県立古代出雲歴 史博物館で保管展示しており、その間、定期的な状 態調査を実施してきた。この調査により近年、経年 変化による劣化が見受けられる個体が増えてきたこ とから、国による修理事業が2010~2020年の計画で 行われている。

この修理事業のなかで、配列による個体番号付与 の規則に合わない銅剣があると判明した。その内容 と考察に与える影響を報告する。

2. 経 緯

1984年に発見された荒神谷遺跡の銅剣は、非常に 脆弱な1本1本が密着した状態で出土した。このような脆弱遺物を取り上げる方法はいくつかあるが、 荒神谷遺跡の調査では遺物の残存状況や遺物が埋蔵 されている土壌の状態について検討を加え、さらに 発掘調査中の遺構や密集する遺物に損傷を与えない という制約から、銅剣を予め合成樹脂とガーゼによ る裏打ちで仮強化して、添え木をあてて取り上げた。 基本的に1本ずつ上記の作業を繰り返し行ったが、 銅剣は密着した状態で埋納されていたため、隣り合っ た銅剣が錆によって癒着していて、2本以上をまと めて取り上げることもあった。

取り上げた銅剣は添え木に乗せたまま個体番号と 埋納時の切先方向を添付し、修理所である(財)元 興寺文化財研究所保存科学センターへ搬入された。 当時の修理方針は、発掘調査報告書を作成する前の段階であることを考慮して、遺物の観察調査ができ、しかも保存に耐え得る程度の応急的な修理とし、現状を尊重した修理とするとされた。このことを踏まえて、現在行われている修理事業では、当時は細部まで検討することができなかった、接合破片の細かな向きや位置を考古学的視点から検討し、可能な限り修正している。平成26年3月の修理検討会でこの作業を行っている際、2本まとめて取り上げた銅剣において、個体番号が出土状況と入れ替わっている疑義が生じた。

問題の銅剣は、当初の修理時に分離する際、先に述べた修理方針に沿って、錆によって癒着している破片はそのまま削り取らずに残されている。これが隣り合っていた銅剣の破片であるということを記録するために、本来あるべき銅剣の位置の欠けと対応するか確認したところ、配列による個体番号の対象銅剣の該当箇所には欠けがなかった。このことから個体番号が入れ替わっている可能性が高くなり、2本以上まとめて取り上げた銅剣すべてについて、検証することになった。

3. 検証作業

複数 (2~5本) まとめて取り上げた銅剣は、合わせて36組92本である。これらの銅剣について、取り上げ時や搬入時の写真と、現況の写真、実測図、観察表とを突き合わせて比較し、実物に付した個体番号が、下記の規則に沿って付けられた番号と一致しているかを検証した。

配列による個体番号付与の規則は以下の通りであ

る。

- (1) 谷側から見て左からA列、B列、C列、D列とする。
- (2) 谷側から各列1~とする。
- (3) 尾根側をA面、谷側をB面とする。(取り上げ作業で板に乗せた時の上面。ただし、B1 ~B15、C1~C4、D1・D2はその逆)

4. 検証結果

複数本をまとめて取り上げた銅剣のうち、【B18・B19】、【B28・B29・B30・B31】の2組について、個体番号が出土状況と入れ替わっていた。出土時の並び順は、以下の通りである。

「・・・B16,B17,**B19,B18**,B20B21・・・」

「・・・B26,B27,**B31,B30,B29,B28**,B32,B33・・・」

なお、取り上げた組合せと修正後の配列は「表1」 のとおりである。

5. 考察に与える影響と修正事項

個体番号は、図面・写真・化学分析結果等、個体に付随する情報が多いため変更しないが、並び順は上記「検証結果」の通りとなるため、「個体番号=埋納位置」として使用している考察等を引用あるいは検証する際には注意が必要である。その他、報告書中の記述、図面に関する事項は以下の通りである。

- (1)報告書第一冊本文編110頁、第2部第5章第1節 3配列の状況
 - (1) 銅剣列の観察において、B列は 9 グループに細分されている。この根拠となる並び方の不連続性は、B18とB19の間、B28~B 31の間に認められないため、グループの変更はない。
- (2)報告書第一冊本文編117頁、第2部第5章 第1節 3配列の状況 「図1」
 - (3) 同笵品の位置関係において、第46図の 3 本組B29、4・5 本組B31のポイント位 置が変わる。

(3)報告書第一冊本文編204・205頁、第3部第 2章 神庭荒神谷銅剣に発生した錆の調査 「図2」「図3」

> 6 結果において、第78図のB28とB31、 B29とB30、第79図のB28とB31の網掛けが 入れ替わる。

(4)報告書第二冊図版編計測表のうち、出土時の切先方向が変わる。

B18 谷口 → 谷奥

B19 谷奥 → 谷口

B28 谷口 → 谷奥

B29 谷奥 → 谷口

B30 谷口 → 谷奥

B31 谷奥 → 谷口

6. おわりに

大量の青銅器の発見から保存修理に至る過程では、 困難な課題が多くあった。今回の修理事業において、 保存科学的調査とあわせて考古学的調査を実施した ことで、修正すべき知見を得ることができた。

本報告にあたり、文化庁美術学芸課、国宝島根県 荒神谷遺跡出土品修理事業の協力者・オブザーバー、 元興寺文化財研究所の方々に協力をいただいた。こ こに感謝いたします。

〈引用・参考文献〉

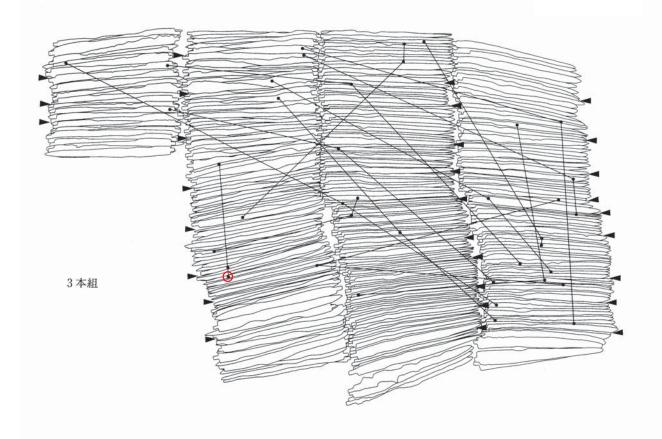
出雲神庭荒神谷遺跡(1996)島根県教育委員会

表 1 複数本をまとめて取り上 げた組合せと修正後の配列

I		尾	根		\neg
	A 24	В	С	D	_
	34 33	111 110	120 119	93 92	
	32 31	109 108	118 117	91 90	-
	30	107	116	89	7
}	29 28	106 105	115 114	88 87	\exists
ļ	27 26	104 103	113 112	86 85	-
	25	102	111	84	
l	24 23	101 100	110 109	83 82	\exists
	22 21	99 98	108 107	81 80	7
	20	97	106	79	
	19 18	96 95	105 104	78 77	
	17	94 93	103 102	76 75	
	16 15	92	101	74	
	14 13	91 90	100 99	73 72	
	12	89	98	71	
	11 10	88 87	97 96	70 69	
	9 8	86 85	95 94	68 67	
	7	84	93	66	
	6 5	83 82	92 91	65 64	
	4	81	90	63	
	3 2	80 79	89 88	62 61	
	1	78 77	87	60 59	
		76	86 85	58	
		75 74	84 83	57 56	
		73	82	55	
		72 71	81 80	54 53	
		70 69	79 78	52 51	
		68	77	50	
		67 66	76 75	49 48	
		65 64	74	47 46	-
		63	73 72 71	45	
		62 61	71 70	44	
		60	69	42	
		59 58	68 67	41 40	
		57 56	66 65	39 38	-
		55	64	37	谷奥
谷口		54 53	63 62	36 35	
		52 51	61 60	34 33	
		50	59	32	
		49 48	58 57	31 30	
		47	56	29	
		46 45	55 54	28 27	
		44 43	53 52	26 25	7
		42	51	24	
		41 40	50 49	23 22	
		39	48	21	
		38 37	47 46	20 19	
		36 35	45 44	18 17	
		34	43	16	╛
		33	42 41	15 14	
			40	13	
		28 29 30	39 38	12 11	\exists
		31 27	37 36	10 9	4
		26	35	8 7	
		25 24	34 33	7 6	-
		23	32	5	7
		22 21	31 30	3	\exists
		20 18	29 28	2	-
		19	27	1	1
		17 16	26 25		
		15	24		
		14 13	23 22		
		12 11	21 20		
		10	19		
		9 8	18 17		
		7	16		
		6 5	15 14		
		4	13		
		3 2	12 11		
		1	10 9		
			8		
			7 6		
			5		
			3		
		1	2		1

番号 まとめて取り上げ(変更なし)

番号 まとめて取り上げ(変更後)



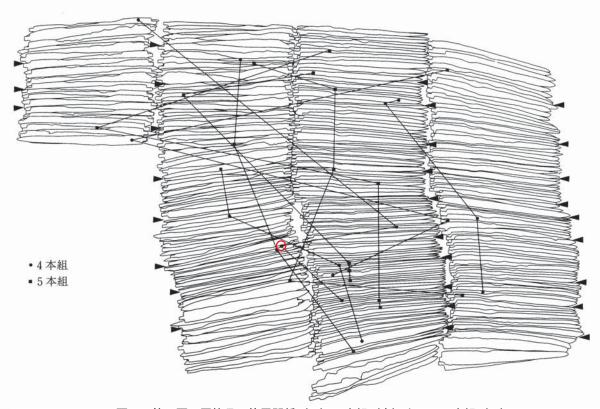


図1 第46図 同笵品の位置関係(2)3本組(上)と4・5本組(下)

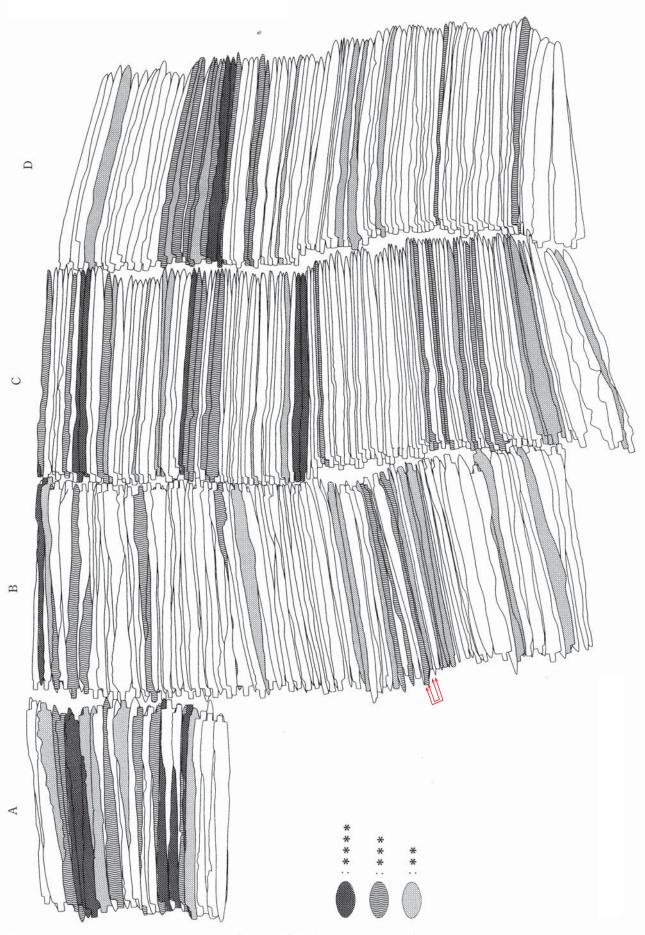


図 2 第78図 藍銅鉱 (Azurite) の分布

